

アレルギー症状の重症度評価と対処法

重症度

軽症 (下記の1つでもあてはまる)

中等症 (下記の1つでもあてはまる)

重症 (下記の1つでもあてはまる)

皮膚

- 部分的な赤み、ぼつぼつ
- 軽いかゆみ
- くちびる・まぶたの腫れ

- 全身性の赤み、ぼつぼつ
- 強いかゆみ
- 顔全体の腫れ



消化器

- 口やのどのかゆみ・違和感
- 弱い腹痛
- 吐き気
- 嘔吐・下痢(1回)

- のどの痛み
- 強い腹痛
- 嘔吐・下痢(2回)



- 持続する強い(がまんできない)おなかの痛み
- 繰り返し吐き続ける



呼吸器

- 鼻水、くしゃみ



- 咳が出る(2回以上)



- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸
- 息がしにくい



全身

- 顔色が悪い



- 唇や爪が青白い
- 脈を触れにくい・不規則
- 意識がもうろうとしている
- ぐったりしている
- 尿や便を漏らす



エピペン

- エピペンを準備



- 治療後も咳が続く・重症と迷うときはエピペンを使用



- すぐにエピペンを使用**



薬

- 30分続けば薬を飲ませる

- 薬を飲ませる
- 呼吸器の症状があれば気管支拡張薬を吸入する(処方がある場合)



受診対応

- 5分ごとに症状を観察
- 1時間続けば医療機関を受診

- 5分ごとに症状を観察
- 医療機関を受診



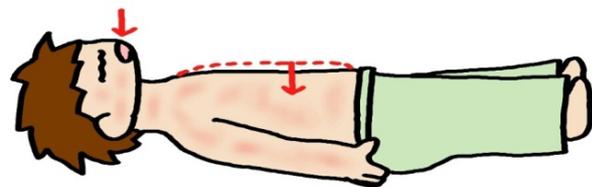
- あおむけの姿勢にする
- 救急車で医療機関を受診



アナフィラキシーへの対応

①状況把握と連絡

仰向けにして呼吸・循環の確認



息をしているか確認
心臓が動いているか確認

助けを呼ぶ



エピペンの準備や救急車の要請を依頼する
なるべくその場を離れない

②エピペン注射

利き腕でペンの中央を持ち、
青色の安全キャップを外す



カバーキャップをあける 安全キャップを外す

太ももの付け根と膝の中央のやや外側に垂直に、
オレンジ色の先端をゆっくり強く押しつけ注射する



「カチッ」と音がしてから5秒間押しつける 服の上からでも可

エピペンを太ももから抜き取り、オレンジ色の
カバーが伸びているのを確認



注射部位をもむ

伸びていない場合、再度押しつける

③救急受診

仰向けにして救急車を待つ



仰向けにして30cm程度足を高くする
呼吸が苦しいときは少し上体を起こす
吐いている時は顔を横向きにする

救急車で医療機関を受診



必ず救急車で医療機関を受診する



アレルギー症状の重症度評価と対応マニュアル

作成：国立病院機構相模原病院 小児科

注意点：本マニュアルは一般の方に対してアレルギー症状への
対応の理解を助ける目的で作成し、内容に関しては責任を負う
が、個々の対応の結果に関して責任を負うものではない。